

～毎月 10 日は人権を考える日～

そのタップ（クリック）が誰かの未来を壊してる！

形を変えた差別情報

近年、動画公開サイトや SNS など、被差別部落を「危険地帯」や「心霊スポット」と称して、面白おかしく紹介する動画や記事が大きな問題になっています。投稿者はアクセス数を稼ぐこと（収益目的）に重きを置き、深く考えることなく



く軽い気持ちで投稿しているの

でしょう。しかし、それは明らかな「アウトティング（暴き行為）」です。そこに住む人々のプライバシーや安全を脅かす大変悪質な行為であり、決して許されるものではありません。



これらの差別拡散コンテンツを視聴する側はどうでしょうか。「怖いもの見たさ」や「好奇心」といった軽い気持ちでコンテンツを再生し、「いいね」をタップすることは、投稿者に

広告収入をもたらすだけでなく、自らも差別に加担することになります。

「特定電気通信による情報の流通によって発生する権利侵害等への対処に関する法律」（情報流通プラットフォーム対処法）が施行され、有害コンテンツが削除されやすくなったとされています。しかし、プラットフォームの運営事業者は海外企業が多く、「我が国固有の部落問題」への理解が得られにくいことが、削除率が上がらない要因となっています。また、フランスやドイツの規制法は我が国の法律よりも事業者への罰則が厳しく定められています。例えばフランスでは、SNS などのプラットフォーム事業者が削除要請や義務に応じない場合、企業の「世界年間売上高の最大 6%」の制裁金や「最大 125 万ユーロ」（日本円で約 2 億 3 千万円）の罰金、さらには担当者への禁錮刑が科されることになっています。

AI（人工知能）も

AI（人工知能）も急速に普及してきました。AI はネット上の膨大なデータを自動で学習するため、ネット上にある差別情報も「正しい情報」として学習し、出力してしまうことがあります。現在の技術水準では、AI が差別や偏見を広げてしまう可能性があるのです。

AI は日々進化・改善されており、間違った情報や悪意ある情報を排除していく方向へ向かっています。しかし現時点では、AI の回答を鵜呑みにせず、情報を受け取る人間が「これは人権を侵害する情報ではないか」と正しくフィルタリングする目（鋭い人権感覚）を持つことが求められています。あなた自身が AI の持つ差別性に気付き、正しく判断できるよう学んでいくことが大切です。